

たかす開拓記念館の再生についての提案

「会報高鷲の文化財」90号で、「高鷲開拓記念館」の開館までに尽力いただいた株式会社中央工芸の中野和美氏の講演をについてお知らせしました。その中で「中野氏からの提案」があり、それに啓発されて、下記の「たかす開拓記念館の再生」について筆者から提案しますので、会員の皆様のご意見をお待ちしています。なお、この提案は既に高鷲文化財保護協会役員及び高鷲振興事務所黒田課長には報告済みです。

1 理由：

- ・日本に三ヶ所しかない開拓に特化した記念館であるため、開拓によって日本国内が発展し活性化したことを知らしめなければならない。その意味から開拓記念館の設立意味がある。
- ・開拓記念館開設から10年が経ち、入場者の減少が目立つ。
- ・高鷲町民だけでなく、郡上市民の入場者も少ない。
- ・近隣の小中校生も高鷲開拓記念館の存在を知らない。
- ・たかす町おこしの中で、観光の一部として利用できないか。

2 再生案

- ・開拓のパネルだけの展示だけでなく、民具も開拓に使用したモノを特別に展示する。
- ・高鷲の歴史、例えば鷲見氏の治政、宝暦騒動の時の高鷲住民の対応等を紹介するコーナーを設ける。
- ・高鷲住民の開拓についての小説又は漫画を作成する。
- ・海外、国内の開拓について企画展を計画する。
- ・開拓についての講演会（学者、研究者、体験者等）を行う。
- ・入り口付近のPR化
- ・下川町と姉妹提携を復活し、下川展示コーナーの充実を図る。

3 実現方法

- ・文化財保護協会内に実現チームを作る。
- ・小中学校へ満州開拓の小パネルを作成し、展示する
- ・小中学校の朝読書用の開拓に漫画を配布する。
- ・県内の博物館等や学校等へ移動展示を行う。
- ・老人ホームなどの施設でパネルを展示、回想法ソフトを配布する。
- ・道の駅等に、たかす開拓記念館のポスターと案内チラシを置く。
- ・下川町の博物館に高鷲開拓記念館の展示コーナーを設ける。
- ・高鷲開拓記念館の下川町展示コーナーの拡大と充実を図る。
- ・下川町へ訪問する。

4 実施時期

- ・平成7年度～令和8年度

5 具現方法

たかす開拓記念館担当者との打ち合わせ→文化財保護協会内にて原案作成・見積作成
→高鷲振興事務所担当者及び所長との検討→社会教育課との検討→予算案作成→議会→
予算成立→具体的行動

創設当時の『たかす開拓記念館』

平成 28 年 4 月 24 日(日)に高鷲町民センター内で日置敏明郡上市長や北海道下川町の谷一之町長を迎え、本協会員が待ち望んでいた「たかす開拓記念館」のオープンセレモニーが行われた。セレモニーには碓前市長をはじめ、下川町から町長や議会議長ら 9 名の方が参加された。郡上市からは市会議員や各町の文化財保護協会会長をはじめ町内自治会長の皆さんなど約 100 名余の参加を得て、厳かの中にも華やかな儀式が執り行われて、「たかす開拓記念館」が開館した。



開拓記念館開館テープカット

会館から令和 7 年 4 月 24 日で 10 年目を迎え、その間開拓記念館管理担当者は上村絵里子氏、日置勉氏、上村強氏と移り変わったが、その内容は大きく変わらなかった。しかし、展示内容には多少の間違いがあり、誤字の修正などをおこなった。また来場者数は年々減少し、開館当初各学校へ回り、生徒さん達の総合学習の一助にしていたと見学をお願いした効果も薄れていった。



開拓記念館入り口

鷲見分校保管民具移動奉仕作業

昭和 58 年から平成 11 年にかけて高鷲文化財保護協会が中心となって、高鷲地域内の人々から寄贈・寄託された生活用具・農具・漁具など民俗資料は、旧高鷲中学校で保存された後、高鷲小学校鷲見分校に移され、旧分校の老朽化に伴い、本会の会員の手によって高鷲開拓記念館に移されることになった。移動作業は大変な作業でしたが、



イロリのある台所

2 日間かけて終了し、現在の展示となっています。



平成 28 年の民具移動風景